

愛知医科大学病院を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	CDI 治療薬の再発抑制効果および医療経済性に及ぼす影響の検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	感染症科
研究責任者	教授 三嶋廣繁
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	CDI は、 <i>Clostridioides difficile</i> という微生物による高齢者に多い腸管疾患で、医療関連感染として重要です。 <i>C. difficile</i> は、自然環境、ヒトや動物の腸内の常在細菌叢として少数常在しますが、抗菌薬などの投与により菌交代現象として異常増殖した <i>C. difficile</i> が産生した毒素により、抗菌薬関連性腸炎や偽膜性大腸炎などに至り下痢症状を生じます。そして、CDI はしばしば再発し、再発による患者さんへの治療上の不利益や入院期間延長による医療経済への影響が問題となっています。そこで今回、CDI 治療薬の選択が再発抑制効果や医療経済性に及ぼす影響を検討します。
対象となる患者さん	2014 年 4 月から 2023 年 3 月までに CDI 治療薬を投与された患者さん
研究の方法	対象となった患者さんの電子カルテ情報より必要な情報を抽出し、CDI 治療薬の再発抑制効果および医療経済性に及ぼす影響を検討します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2023 年 3 月 31 日
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	利用する情報から、お名前、住所などの個人を特定できる情報は削除して利用します。また、研究結果は学会や学術誌などで発表しますが、その際も患者さんを特定できる個人情報を使用しません。本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 感染制御部 担当者：薬剤師 塩田 有史 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311 (内線 39741)